

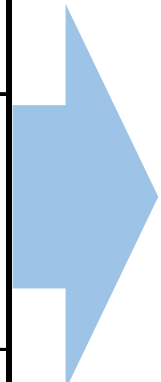
令和3年度 ガイドライン評価改善シート

施設名 (スタジオアルテ生活介護・大岡分室) 作成日時 (令和3年 9月15日)

代表	施設長	本部
印		

令和2年度 改善への取り組み	施設全体の流れができ、その中に個々の活動の調整しながら乗せていき、来所してから帰るまで、無事に過ごすことができた。
今年度の施設目標	・利用者、保護者、関わる全ての方々との連携をしっかりと、それぞれにあった形、手段でコミュニケーションをとる中で、今日の安全で落ち着いた活動を無事に終え、明日につなげる。

項目	事業所内評価を踏まえた上での問題点	事業所内評価を踏まえた上での改善点
環境・体制整備	個別化したエリアの配置が、個々の健康状態や障害特性などにより、安心・安全を保てない部分が出てきてしまった。同部屋利用者の声や行動に耐えられなくなってしまうなど。	利用者の方の安心・安全を第一に、再構造化をする。スタッフの人数は限られているし、発作が心配な利用者の方もいるので、完全に仕切りを作ってしまう事は難しいが、自立エリアだけ部屋を分けるなど、集中できる環境を整えたい。
業務改善	支援をしながらも書類が溜まるスタッフ。利用者を持たせるときは、片付けが出来るスタッフ。また、それが難しいスタッフ。昼食提供など、直接利用者を相手にしない仕事も加わり、さらに立ち回りが難しくなった。特定の利用者との関わり方、接し方の違いや、利用者の表れ。様々な事を見極めて日々の支援スタッフの配置を決めているが、偏りができてしまっているように思える。業務内容の取得方法がスタッフによって異なるため、伝わっていないことがある。日常的な目の前にある業務をこなす事とは別で、支援について考えたり、準備をしたり。事務的、準備などの作業を、利用者の方が活動する時間の中に取り入れる事が難しい。	支援第一。適材適所。それぞれのスタッフの良いところを活かして支援体制を組み立てる。配置理由なども伝えていく。また、スタッフの急な変更などにより、支援が行き届かなくなることを避けるため、余裕がある時は少し無理もして、普段とは違う仕事を担当してもらう。マニュアルを作成する。業務日誌や個々の支援シートに書かれた過去の情報が伝わりにくいので、支援方法など、変更点は、できる限り、ラインワークスでお知らせする。
適切な支援の提供	自立してできることを増やすために、アセスメントを行ったり、活動の問題点を見つけ、再構造化していく取り組みが、滞ってしまっている。本人のニーズを探ることよりも保護者のニーズを優先してしまい、その強さによって、“何かに取り組む”機会の多さに偏りが出ている。今まではうまくいっていたスケジュールや支援内容など、徐々に不具合が生じている部分が出てきている。	日々の活動内容を記録したシートを参考に、個々の活動内容の再構造化を行う。支援計画を見直すタイミングの時になってしまうと思うが、スタッフの意見を取入れながら行う。思いつきでも、保護者のニーズでも、現場のニーズでも、偏ってしまうと、やれることは、できるときにやってみる。
関係機関との連携	施設内の関わり、支援だけでは難しいケースが出てきたときは、保護者の方にお伝えし、現状をお伝えすようにしている。また、個々の相談支援の方にも協力をお願いするが、様々な制約や、関わる人たちの関係性や事情などですんなりいかない事が多いことがわかった。	引き続き、保護者や、相談支援の方の力を借りながら。知らないことはどんどん聞いて、福祉の力を借りてでできないことできない事、いろいろな可能性を見つきたい。
本人（家族）への説明責任等	家族への活動報告は、日々の連絡帳に記入、送迎時の会話、月に一度配布のカレンダーに個別の写真や動画を載せ、伝えるようにしている。6か月に1度、支援計画についての面談を行っているが、生活の中で気になることなどがあれば随時面談を設定し、お話を伺っている。本人への説明は難しいが、イベント内容などのお知らせは、写真・絵などを使用し、視覚的に伝えている。が、反応に温度差があるため、伝わっているのか？何を思っているのか？わからない保護者の方もいる。	各ご家庭のとらえ方はいろいろだが、伝わっているなど実感できることもあるので、日々の活動、支援については引き続き、伝えていきたい。成人施設として、成人前とは異なる部分。将来に向けた支援についても伝えられるようにしたい。本人への説明は、難しいが、これから始めようとする事など、本人に伝わる形で伝え、納得してくれた上で開始したい。
非常時等の対応	月に一度、避難訓練を行っているが、自閉症の特性を気にしてしまい、緊迫した訓練ができない。（靴は履き替えたい。揃えたい。など）今はこれ、いつもはこれ。を伝えるべきなのか、迷ってしまう。また、切替がうまくできない利用者の方を誘導することに、毎回でこぼってしまう。本当に動けない方を運ぶ手段もない。	できる方には無理のない範囲で、「避難カード→活動をやめて外に出る→外で待つ」以外のバリエーションで避難計画を立て、実施していきたい。利用者、スタッフが自立して動けなくなってしまったことなどを想定した訓練なども行う。備蓄品の確認をする。



分析検討してみたの事業所の強み	分析検討してみたの事業所の改善点
<p>・施設全体の利用者が来てから帰るまでの大きな流れはできていて、活動内容は個別だが、始まって終わることが当たり前ができる。また、利用者を迎える準備内容（スケジュールのセット、備品の設置など）を、主要スタッフが把握しているため、スムーズに現場を整えることができる。・利用者個々の特性に合わせて、スタッフ自らが考え、伝えたいことを伝えるようになった。（見通しが持てない方にカードを使って伝えてみる。何か欲しいようにしている方に要求ボードをもって試みる。など）・スタッフの、自分たちの施設であるという意識が高まり、率先してトイレや、水回りの掃除をしてくれる。・この1年間、大きな事故なく過ごすことができた。・スタッフ間で、利用者のかたの支援について話す機会が増えてきた。・スタッフ自らその場で構造化を試みるなど、臨機応変に対応し、落ち着いた対応ができるようになった。</p>	<p>・個々のスケジュールや環境の中で、“いつ・どこで・何を・どうなったら終わりか”を知り、自立的に動けることも増えてきたが、少しずつ調整が必要だと思える場面が出てきた。（活動エリアの見直しや、活動内容の内容の見直しや、活動の間隔など）再構造化の必要性。・余暇時間の過ごし方が利用者も何をすればよいのか？座っていいののか？あまいな様子。他にやる事がなくなってしまい、余暇（休憩）としてスケジュールを追加したスタッフも、これでいいのか？と不安な気持ちになってしまっている。それでよいのかもしれないが、別の可能性は探していきたい。余暇活動のアセスメントを行う。・利用者に対するスタッフの対応。スタッフに対する利用者の対応。が様々。スタッフは利用者の安全を守らないといけない立場なので、なんでも言いなりの関係にはなってはいけないと思う。普段の活動の中でも、全てが優しただけではダメだと思う。が、その加減が難しい。</p>

事業所の改善への取り組み
<p>・エリア設定、スケジュールの内容や量、一つ一つの活動の自立具合、等、再構造化を行う。</p> <p>・スタッフの良いところを活かした支援体制を設定する。その理由をしっかりと伝え、支援に集中してもらう。</p> <p>・保護者のニーズに応える中で、利用者本人の行動や様子で、ニーズの通りには難しい事が多々ある。家ではできても施設ではできない。等。保護者のニーズに応えながらも、本人のニーズをしっかりと見つけ、説明をし、協同して、最後まで責任をもって、スモールステップで支援をしていきたい。</p>

自己評価を行っての事業所としての感想など
<p>たくさん失敗を重ねた上での今の状態なんだと思います。石鹸は棚の中。トイレトベーパーは無。たくさん鍵……。面倒ですがきつこれが正解です。やっと整ってきました。が次から次へと……。同じ自閉症であっても、みんな全く違います。見通しが持てなくて不安なのか？伝えたところで今度は生き急ぐことで不穏になったり。スタッフの顔色ばかり窺って支持を待っていたり。自由に動き回って好きなことをしてくれるのは良いけど、大体余計なことだったり……。愉快的仲間たちで楽しいのですが、一瞬たりとも目が離せません。どうしても日々の業務に追われてしまいます。もう少し、全体を見て効率よく仕事をできるようにになりたいと思います。やればできる、利用者さん！ということをこの4年間で何度も目にし、実感しています。でも、重要なのは何かするための準備です。しっかりと考えて、準備したものは大体うまくいくし、ダメでもすぐに切り替わられます。やればできる利用者さんに、たくさん何かをやる機会を与えてあげたいです。そして、それが嫌ならやらなければ良いし、楽しいと思えることは続けていけばよいと思います。</p>

来年度の施設目標	毎日同じは安心だけど、ずっと同じはありえない。“今”に合わせた構造化を行い、安心・安全で落ち着いた毎日を送る。その中で、何が本人にとって幸せなのか？楽しみなのか？つまらない事なのか？見つけることのできる1年間にしたい。
----------	---